

教科名	技術・家庭科	学年	第2学年	埜 豊
-----	--------	----	------	-----

《学習目標》

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

《年間授業実施計画》

月	単元名・教材名等	学習内容・項目等	学習ポイント・その他
4	○生物育成の技術	・栽培する作物の計画をまとめ、見直しをもつ。 ・作物の生育に適する条件を理解する。 ・目的とする作物の生育に適切な手入れの仕方を理解し、適切な管理する。	・栽培計画を立てる。 ・土づくり ・植えつけをする ・支柱立て ・追肥 ・摘芽、摘しん ・鉢上げを行う。 ・栽培実習を行う。 ・収穫
5			
6			
7	○エネルギー変換の技術	○人間はどのようにエネルギーを利用してきたかを考え、エネルギーの利用には様々な技術が必要なことについて理解することができる。 ・エネルギーの利用について知る。 ・エネルギー資源について知る。 ○様々な機器や機械を通して、エネルギーをどのような形に変換し、利用しているかについて理解することができる。 ・二次エネルギーの利用について知る。 ・エネルギーの変換と効率について知る。 ○目的と使用条件を考慮し、製作品を完成させることができる。 ・製作品を完成させる。 ○機器の手入れや点検について知り、事故防止の具体的な方法を身に付けることができる。 ・機器の安全な利用について知る。 ・機器の適切な保守点検を行う。 ○エネルギー変換に関する技術の評価と活用について、主体的に考えることができる。 ・社会・環境とのかかわりについて考える。 ・エネルギー変換に関する技術とわたしたちについて考える。	・エネルギーの利用を知る。 ・簡単な電気回路が構築できる。 ・電気機器の保守、点検ができる。 ・電気機器の組立ができる。 ・電気エネルギーを利用した製作品ができる。 ・社会や環境とエネルギーの関わりを知る。
8			
9			
10			
11			
12			
1			
2			
3			

《評価の観点および具体的な評価方法》

観点1「知識・技能」 観点2「思考・判断・表現」 観点3「主体的に学習に取り組む態度」

評価の観点	具体的な評価方法
観点1	・ 学習内容に関する定期テスト A評価→40点以上 C評価→19点以下 (50点満点) ・ 製作品 A評価→エネルギー変換を利用した製作品の加工ができる。 課題に沿った作品を完成ができる。 C評価→未完成、未提出
観点2	・ 工具を適切に使うことができる。 ・ 課題を意識し、課題に沿った工夫ある作品ができる。
観点3	観点1から観点2を並べて AA BA (ABも可能性はあります) →A評価 AB BB CB CA→B評価 BC CC AC→C評価

＊家庭分野の成績と合わせて「技術・家庭」の成績が出ます。

《教科の約束事》

- ・ 技術室での授業はジャージ着用で行います。腕や脚を工具から守ります。
- ・ 1週間に1時間しかありません、忘れ物をしないように気をつけましょう。

教科名	技術・家庭（家庭分野）	学年	第2学年	中山 もも
-----	-------------	----	------	-------

《学習目標》

○生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を見つけるようにする。 ○生活について見直し、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。 ○よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。
--

《年間授業実施計画》

月	単元名・教材名等	学習内容・項目等	学習ポイント・その他
一 学 期 & 二 学 期	B 衣食住の生活【衣生活】 目的に応じた衣服の選択 日常着の手入れと保管 生活を豊かにするものの製作 持続可能な衣生活	・衣服で伝わるメッセージ ・自分らしくコーディネート ・つなげよう和服の文化 ・上手な衣服の選択 ・まかせて衣服の手入れ ・布の繊維に応じた手入れ ・めざそう洗濯名人 ・補修や収納・保管 ・製作実習 ・持続可能な衣生活をめざして	○衣服の基本的な機能について理解する。 ○和服の文化に関心をもち、和服の着方を知る。 ○衣服の状態に応じた手入れの必要性がわかり、適切な手入れができる。 ○衣服の素材に合った洗剤を選び、適切な量を使用できる。 ○ほころび直しやボタンつけなどの方法を知り、実践できる。 ○資源や環境に配慮した衣生活をおくるために工夫できることを考える。
三 学 期	C 消費生活・環境 家庭生活と消費 購入・支払いと生活情報 消費者被害と消費者の自立 持続可能な社会	・消費生活のしくみ ・家庭生活における収入と支出 ・いろいろな購入方法や支払い方法 ・情報を活用した上手な購入 ・なくならない消費者被害 ・消費者を支えるもの ・消費者の権利と責任 ・消費行動が社会に与える影響 ・消費行動が環境に与える影響 ・世界の国々と連帯した持続可能な生活の創造へ	○消費者として必要な知識を身につけ、さまざまな場面で適切な行動がとれる事ができる。 ○選択、購入の際、環境に配慮した消費生活のくふうができる。

《評価の観点および具体的な評価方法》

観点1「知識・技能」 観点2「思考・判断・表現」 観点3「主体的に学習に取り組む態度」

評価の観点	具体的な評価方法
観点1	「定期テスト、レポート、学習過程における技能の習熟状況、完成した作品」などを評価します。
観点2	「授業時のグループでの話し合い、プリントの内容、振り返りシート」など多面的に評価します。
観点3	「作業や実習、毎時間の学習への取組状況、作品の提出状況、家庭での実践記録」など多面的に評価します。

《教科の約束事》

教科の約束事

- 1週間に1度の授業なので、集中して授業を受けましょう。
- 教科書・ハンドノート・ファイルなどの勉強用具は絶対に忘れないようにしてください。
- 製作、調理などの実践的・体験的な学習活動を行います。
- 刃物類、ガス、火気などを取り扱って実習するため、安全に気を付けて取り組みましょう。
- 授業で学んだことを生かし、自立する力をつけるために、学習した内容を家庭で実践するようにしましょう。